

東アジア・サマースクール 『NARASIA未来塾』の開催について

奈良県地域振興部東アジア連携課

「東アジア・サマースクール 『NARASIA未来塾』」の趣旨

2010年に国家的事業として開催された「平城遷都1300年祭」を契機に、奈良県では東アジア諸国との連携事業を推進しています。2010年から開催している東アジア地方政府会合では中国や韓国、東南アジアなどの各国地方政府が奈良に集い、地域振興や教育、人材育成などについて、これからの将来に向けた政策課題の意見交換を行っています。

「東アジア・サマースクール『NARASIA未来塾』」は、東アジア諸国間の次世代人材育成を主眼として2011年7月18日（月）から8月6日（土）までの約3週間にわたり開催されました。

かつて中国や朝鮮半島から様々な技術や文化が伝えられ、日本の国づくりが行われた奈良に中国、韓国の若い世代を招き、日中韓3カ国の受講生が各分野に精通した専門家による講義の受講やグループ対話、フィールドワーク、視察研修や交流プログラムを通じて、受講生たちが共に学び、相互の歴史や文化、社会経済などを認識し、議論をし、将来の東アジアを創り出す原動力となることを期待して実施するものです。

「NARASIA（ナラジア）」とは、奈良とアジアが繋がっていることを示しています。「NARA」と「ASIA」が共有する「A」はプラスαを表し、奈良県がこれからの政策のキーワードとして東アジア連携の推進に関する様々な事業に使用している言葉です。

開校式、基調講演

7月18日に開校式が開催され、各国の地方政府から推薦を受けた38名（日本9名、中国18名、韓国11名）の受講生が初めて顔を合わせました。荒

井正吾・奈良県知事が、「東アジア・サマースクールが1300年前の感謝の気持ちを込めて開催するものであり、共通の文化的資質や能力を確かめ合って将来に活かしてほしい」と挨拶を行いました。また、スクールの意義や心構えについて、名誉塾長である第79代内閣総理大臣細川護熙氏からのメッセージが受講生に伝えられました。その後の、基調講演「アジアの共有文化とその力」では、李御寧氏（韓国初代文化部長官）が受講生に対して日中韓が持つ多くの共有する文化を力に本当の意味での新しいアジアの関係を創ってほしいと力強く伝えました。

カリキュラムについて（講義と視察）

7月19日からは、講義が始まりました。約20人の講師陣による90分の講義分野は多岐にわたり、講義後のグループワークでは講師を交えて積極的な議論が行われました。原文人氏（デフタ・パートナーズ会長、アライアンス・フォーラム財団代表理事）は、「公益資本主義」に基づく新しい企業経営をアジアから世界へ広めることについて講義を行いました。北京大学の王勇教授は、シルクロードが西洋の文明観を構築する概念であり、東洋では西洋とは違うシルクロード交易が行われていたこと



NARASIA未来塾 開校式

に触れ、国際化する未来に向けて、東洋の歴史を複眼的に捉える必要性があると講義を行いました。

地球を構成する陸域と海域の関連を科学的に解明し、本来の繋がりを再生して環境問題を解決する「森里海連環学」や生薬や漢方薬など伝統医学の存続、異文化理解、日本文化史とアジアの関係、科学技術の変遷など多様な講義が行われました。

視察研修では、世界遺産に登録されている奈良市内の東大寺、唐招提寺などに赴きました。また、奈良県内の都城跡や古墳などの埋蔵文化財の調査研究を行う県立橿原考古学研究所で文化財の保存科学について学び、明日香村の県立万葉文化館では、「万葉集」の詠まれた時代の日本について学芸員からの説明を受け、質疑も熱心に行われました。

交流プログラムでは、奈良市国際交流ボランティア協会の協力による県内ホームビジットや折り紙を体験し、まつぼっくり少年少女合唱団と日中韓各国に伝わる「歌」を一緒に歌うことを通じて交流を深めました。

十津川村フィールドワーク

8月2日から2泊3日で日本一大きな村、十津川村でのフィールドワークが始まりました。十津川村役場で更谷慈禧村長から村の政策説明を受け、その後、観光政策や福祉政策の担当者から個別の施策や課題が説明されました。観光や産業振興、今後東アジアでも急速に進む高齢化や過疎化などの問題について、積極的な質問がなされました。夕方からは十津川村神納川地区の農家民宿に分宿し、農作業や調理手伝いを通じて村民との交流を深めました。

翌日は、特別養護老人ホーム「高森の郷」を訪問し、概要の説明を受けた後施設を見学しました。その後、世界遺産である熊野古道、小辺路を散策しました。

また、神納川地区で都市部と過疎地を結ぶプロジェクトを推進している「神納川HBP (Happy Bridge Project)」事務局から交流事業などの取組みの説明や受講生との意見交換を行いました。

成果発表、閉校式

日中韓の受講生が「東アジア・サマースクール

『NARASIA』の成果として、十津川での6つのグループにわかれ、研究したテーマに基づいて発表を行いました。観光振興や林業の活性化などについて、中国や韓国の事例も交えながらプレゼンテーションが展開されました。伊藤忠通・奈良県立大学学長からは、「簡単に情報交換できるIT社会だが、直接会ってコミュニケーションをとることの重要性を痛感した。『創発的』『共創的』という姿勢を大切にしながら、新しい価値や資源を発見し、新しい東アジア、世界の未来の創造に生かして欲しい」と講評がされました。

成果発表後は、受講生全員が全カリキュラムを総括して、意見を発表し、ゲストも交えてグループでの対話が行われ、その後の閉校式では、荒井知事から修了証が受講生一人ひとりに手渡されました。



成果発表の様子

まとめ

幅広い分野の講義や交流事業、十津川村へのフィールドワークなどの多様なカリキュラムをもとに構成された第1回「東アジア・サマースクール『NARASIA未来塾』」は夏の深まりと共に終了しました。短期間ではあるものの3カ国の受講生が相互の歴史や文化、考え方や生活の共有を通して、人間関係が日毎に構築されていく様子が見受けられました。受講生からは、「語り合う心が明るい未来を創造する」や「国ごとの考え方の違いを多くの人が自覚していないと感じた」などの感想が述べられました。主催者としては第1期生の意見や感想も参考にしながら今後の東アジア・サマースクール事業を推進したいと考えています。

これらの出会いを彼らに与えることができた本事業が、東アジア地域の相互理解や友好交流を促進させ、やがて東アジアの未来を切り拓く礎となることを期待しています。